



豊かな子

明るく、思いやりのある子

夢に向かって、自ら学ぶ子

身体を鍛え、最後までやりぬく子



「校長 命の講話」

さて、6月1日は、長崎県の子供たちや先生たちにとって「いのち」を見つめる特別な日でした。今から21年前の平成16年6月1日、佐世保市の小学校で6年生の女の子が、同じクラスの友達に首を切られ命を落とすというとても悲しい事件が起こりました。たった一つの尊いいのちが、消えてしまったというつらくて悲しい日でもあります。だから、**6月1日は、これからずっと「命を見つめる日」です。**いのちについて考える大切な日であり続けます。今日から1週間、ひあしっ子の心を見つめる教育週間が始まります。命について、命をどう生きるかについて、みんなの命と一緒に生きていくことについて、しっかり考えていく期間にしていきたいと思います。

1 ここは、どこだと思いますか？

- ・エジプトとのナイル川。全長6700km、川幅広いところで50km
- ・狭いところでも、川幅500メートルもあります。



2 そこに暮らすアリの集団3,000匹が、餌を求めて川を渡ろうとする。

さて、どうやって??

3 アリは、お互いが離れないようにしっかりつながり、大きなボールのような固まりをつくる。これを、「アリボール」と呼びます。そして、水に入る。

その時、3分の1は水面から出ているが、残りの3分の2のアリは、水の中。

このままでは、2000匹のアリは死んでしまう。

そこで、水面のアリは次第に水の中に入り、その代わり水の中にいたアリが、水面に浮かび上がります。

このように交替しながら、潜ったり、水面に浮かんできたりしながら、3,000匹みんなが息をするのです。

4 もしも、3000匹のアリが、自分だけ楽をしようとして、いつも水面上に出ようとするなら、2000匹のアリは死んでしまい、ついには3000匹みんなが全滅してしまうことになるでしょう。

アリボールをつくり、水面と水中を交替しながら川を渡るの、生きるためのアリのルールであり、知恵でもあると思います。

諫早小学校には、395名のみんなが生活しています。アリの3,000匹の集団に比べたら、随分少ない人数です。諫小には、アリボールのような、みんなが協力して生きていくための知恵やルールはあるでしょうか？あるとすれば、どんな知恵でしょうか？どんなルールでしょうか？そして、その知恵やルールは、生かされているでしょうか？

今日は、諫小の命を大切に、命を支え合っていくためのルールを決めたいと思います。395人全員が賛成してくれたルールだけを、「**諫小命のルール**」と呼んでいきたいと思います。

今から、いくつかルール候補を提案しますが、そのルールに賛成か反対か、一人一人考えてみてください。

①自分の命を大切にする。

- ・自分から、命を絶ってはいけない・・・自殺
- ・命が危険になることはしてはいけない・・・信号無視、危険運転、用水路、子どもだけ水遊び

②周りのみんなの命を大切にする。

- 命を奪う・・・殺害
- 命を危険にさらす・・・暴言「死ね」「うざい」「消えろ」
 - 暴力（刃物尖ったもので突く、叩く、蹴る、押し倒す）

③みんなの命を守り合う、生きることを支え合う。

- 人の命を差別しない・・・悪口、無視、仲間外し、指示命令
- 明るい心でみんなの命と付き合う・・・あさいつを交わす・声をかけ合う
 - 「ありがとう」「大丈夫」「がんばろう」

諫小の395名は、性別も見た目も、好きな食べ物も、得意なことも、苦手なことも、みんな違います。共通していることもあります。そうです、みんな大切な命をもって、みんなで支え合って生きているということです。みんなが、気持ちよく、お互いを認め合い、助け合い、励まし合いながら生活できる諫小学校でありたいと、校長先生はいつも願っています。

今日の集会で考えた「諫小命のルール」をみんな心がけて、395人の命がキラキラ輝く毎日にしていきましょう。アリにだって、できているルール、人間の私たちにできないことは絶対にないと確信しています。

被爆体験伝承講話

7月1日（火）、低学年・高学年に分かれて、長崎原爆死没者追悼平和祈念館のボランティア、鈴木健二様から、交流証言講話をしていただきました。被爆された方から直接聞かれた話を、スライド等を活用しながら、分かりやすくお話していただきました。

子どもたちには、**戦争の悲惨さや平和の大切さを改めて考える良い機会**となりました。今年は、広島・長崎の原爆投下から80年目の節目の年になります。各ご家庭におかれましても平和の大切さについて、お子様と考えていただければと思います。



授業参観「命の授業」



ひあしっ子の心を見つめる教育週間の最終日、各教室では、生命尊重に係る道徳の授業を行いました。1年生では、等身大の赤ちゃんの人形を抱っこして、自分の命の尊さを感じ、命を大事に生きていこうとする心情を育みました。「**諫小命のルール**」をみんなで守り、大事にしていきたいと思います。

夏休み読書の勧め「読む子は育つ」

永年の教員経験から、**本をよく読む子どもは学力が高く、学力が高い子どもは本を読む習慣がついています。**天才子役としてブレイクした芦田愛菜さんは、幼少期から読書習慣があり、小2の頃には、東野圭吾さんの小説を読んでいたそうです。早い年齢で自ら本を読むことは、人生レベルで大きなアドバンテージとなることは間違いなさそうです。

全国学校図書館協議会のデータによると、小学生の1か月平均13.2冊だそうです。低学年は絵本も入っているので、多めの数字がでているのかもしれませんが。4～6年生には、ある程度の量がある本を週に1冊ぐらいいは読んでほしいと思います。